

科目区分：小学校教科科目

授業科目名：初等音楽

対象年次：2年次

「初等音楽」

音楽教育講座・福富 彩子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、小学校学習指導要領（音楽）の「表現（歌唱）」を中心とした歌唱授業に対応できるピアノ伴奏及び弾き歌いの表現・技能の向上・習得を目的としており、初等の歌唱共通教材を取り上げて演習形式で授業を行っている。

到達目標は、以下の3点である。

- 1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- 2) 小学校教科書掲載程度の楽曲が弾き歌いできる。
- 3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

2. 授業の概要について

「初等音楽」は、小学校・幼稚園教諭教職員免許状修得のための選択必修の科目である。

全音楽教員担当のクラス分けて開講され、今年度、福富クラスの履修登録者数は16名、最終試験受験者は14名であった。うち、音楽経験者10名、未経験者4名であった。本授業は、弾き歌い及びピアノの簡易伴奏・和音付けの知識・技能の習得に加え、表現の拡充を図るため、授業外学習が重要となる。また、各受講者の課題や伴奏（本伴奏・簡易伴奏）は熟達度に応じて進めた。最終試験までに7曲の歌唱教材を最低習得曲数として設定しており、最終回は3曲（弾き歌い1曲以上とピアノ伴奏）の実技試験と振り返りを行った。

以下、授業スケジュールである。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ピアノの基礎的奏法（うみ）
- 第3回 基礎的課題の演習（かたつむり、日のまる 他）
- 第4回 基礎的課題の演習（ひらいたひらいた 他）
- 第5回 基礎的課題の演習（かくれんぼ 他）
- 第6回 ピアノの応用的奏法と弾き歌いについて
- 第7回 応用的課題の演習（春がきた 他）

- 第8回 応用的課題の演習（虫のこえ 他）
- 第9回 応用的課題の演習（夕やけこやけ、うさぎ 他）
- 第10回 アーティキュレーション：課題の演習（茶つみ、まきばの朝 他）
- 第11回 ペダルの使用：課題の演習（春の小川、さくら 他）
- 第12回 表現の多様性1：課題の演習（ふじ山 他）
- 第13回 表現の多様性2：課題の演習（もみじ 他）
- 第14回 総まとめと課題の演習
- 第15回 実技試験と振り返り

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

地域や学校現場を対象とした研究・教育の取組として、地域での演奏会開催や、小・中学校での歌唱の鑑賞授業（ピアノ伴奏）、高等学校の課題研究などの担当経験から、それらの成果や学校現場の課題をふまえて実技指導を行っているが、とりわけ実技面での技能向上を目的とする本授業において、受講人数と時間数の関係で演習時間の確保を優先し、ビデオによる紹介やディスカッション等を取り入れることが難しいのが実情である。

4. 授業外学習の促進について

1) 動機付けと事前練習の必要性

本授業での課題の実施（実技演習）には音楽の基礎的な知識・技能とともに予習・復習が欠かせない。毎時の課題を明示し、授業時には各5～10分程度（授業時間外の補講等も含め）の個別実技指導を行った。

また、毎時の最後に受講者全員での歌唱とピアノ伴奏を行う等、各役割を認識して個々の課題や改善点の指摘とフィードバックを行うよう心がけている。さらに、次回授業時の課題を必ず決定し、各自で準備をしてくるよう課している。毎時の自己課題と1

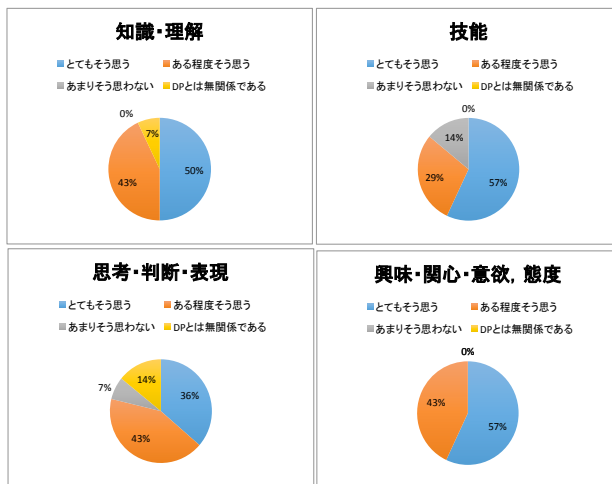
週間毎の実現可能な目標設定を各自に意識させ、段階的な学習方法で動機付けを高めることを意識して授業を行った。

5. DP 調査の結果について

本授業終了時、試験受験者 14 名を対象に実施した DP 調査の結果を以下に記す。

DP1	知識・理解: 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。
DP2	技能: 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。
DP3	思考・判断・表現: 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。
DP4	興味・関心・意欲、態度: 教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

【図 1 DP 1～DP 4 の項目】



【図 2 DP 1～4 のアンケート結果】

【表 1: 授業外学習時間のアンケート結果 1】

この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。	人数 (%)
4時間～5時間	7名 (50%)
3時間～4時間未満	5名 (36%)
2時間～3時間未満	5名 (36%)
1時間～2時間未満	2名 (14%)

【表 2: 授業外学習時間のアンケート結果 2】

この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。	人数 (%)
5時間以上	1名 (7%)
3～5時間程度	0名
2時間程度	1名 (7%)
1時間程度	5名 (36%)
0.5時間程度	2名 (14%)
行っていない	6名 (43%)

この授業を通して、教員になる上で、どのようなスキルが身につくと思いますか。	
受講者A	ピアノ演奏
受講者B	ピアノを弾く力
受講者C	ピアノを弾く技術
受講者D	音楽演奏、伴奏、弾き歌い
受講者E	音楽の授業でのピアノを弾く能力
受講者F	ピアノの技術
受講者G	ピアノを弾きながら歌うことができるようになりました。
受講者H	ピアノを弾く技術、準備の大切さ
受講者I	ピアノの技術の向上。楽譜を読む上で必要になる知識。
受講者J	伴奏と伴奏に合わせて歌うスキル
受講者K	伴奏力(表現力)、弾き歌い力(歌唱力)
受講者L	音楽の技能
受講者M	周りの雰囲気を感じ取ること。自分のメロディ(言動)に声を重ねてくれることの喜びを感じられると思う。

【図 3: 記述式アンケート結果】

6. アンケート結果のまとめと課題

「興味・関心・意欲、態度」のアンケート結果では、「とてもそう思う (57%)」「ある程度そう思う (43%)」と高い割合であった。「知識・理解」に関しても「とてもそう思う (50%)」「ある程度そう思う (43%)」とポジティブな回答であった。「技能」に関しては、多数の受講生が「とてもそう思う (57%)」「ある程度そう思う (29%)」と回答した一方で、「あまりそう思わない (14%)」と回答した者もあり、「思考・判断」の「あまりそう思わない (7%)」「DPとは無関係 (14%)」の結果と総合すると、授業で身につけたピアノ演奏の技能・表現力を、教育活動に取り組むための必要な力として結びつけられていない受講生が 1～2 割程度いたものと推察された。授業外学習については、ピアノの演奏技能向上のために練習が欠かせないことを認識し、ほとんどの受講者が授業外学習に積極的に取り組んでいることがわかった。

本授業では各受講者の熟達度に沿った課題と指導を行い、個別指導と全体合唱 (ピアノ伴奏) を毎時行った。課題習得に関して、一番多い者で 14 曲、少ない者で 7 曲であった。全体のアンケート結果から、全受講者が興味・感心を持って受講していること、また、授業を通して身につけられる力として、「ピアノ演奏技術」「伴奏」「弾き歌い」「歌唱」「読譜」「音楽の技能」「音楽授業でのピアノ演奏」「周りの雰囲気を感じ取る」などの各能力を挙げている点からも、意欲的な取組姿勢とポジティブなフィードバックを得ることができた。

課題として、各観点において総合的に学校教育での授業づくりの実践に活かせるよう、さらなる工夫と検討が必要であると感じた。